

誇りを未来へ

「謙さんは、いつもコーバンギラーって言うていたね。」

喜納兼稚さんと城野豊さんが、懐かしそうに振り返っていました。

コーバンとは、サバニの中ほどに据え、捕った魚を入れておく四角の板囲いを升に見立てて使っていた言葉。ギラーは升の表面を平らに切ること。この二つの言葉を合わせてコーバンギラー。その升いっばいに、海の恵みが満ちますように。大漁と、海への感謝を込めた、糸満海人の言葉です。だから乾杯は、こう続きます。

「コーバンギラー、ニガヤビラ」
大漁を願いましょ、と。

謙さんは「海人のまち糸満らしく」と言っ、この言葉にこだわり、乾杯の時もこの言葉を使っ、みんなにも広めようとしていたと話をしてくれました。

その想いは、今、確かに受け継がれています。遺された道具と想いを守る人がいます。伝統のサバニの奥にある、海と生きてきた、糸満というまちの記憶です。

6月18日(木)、旧暦五月四日に行われた糸満ハーレー。三つのムラの漕ぎ手が、サバニに乗り込み、エークを握る。御願に始まり、御願に終わる。海への静かな祈りと、力強いエークさばき。そこには、これまで受け継ぎ、大切に守ってきた糸満の誇りが表れていました。

これは、誰か特別な人のもではありません。このまちで過ごし、歴史や文化を紡いでいく、私たち一人一人のもです。

「これからも糸満の誇りと海の恵みが続いていきますように」。

そう願って、皆さんも、こう乾杯してみませんか。

コーバンギラー、ニガヤビラ!

